

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

大事な価値観は無理やり教え込む 藤原 正彦 (お茶の水女子大学教授)

1. 新渡戸稲造は、ベルギー法学の大家から「日本には宗教教育はないのか?」と問われたことに強いショックを受けます。欧米人にとって、宗教はとても重要なものです。道徳教育も、キリスト教が担っていました。ですから、欧米から見ると日本とはなんとと言う野蛮な国なのかということになる。ところが新渡戸は、キリスト教がなくても日本には武士道という素晴らしい考え方があって、それが日本人の高い道徳の基礎となっていると思いついた。世界にこのような日本を理解してもらうために、本書を英語で書いたのです。
2. 今の時代の道徳の授業は、なんでもかんでも「議論して決めなさい」という流れになっています。上から押し付けたり叩き込んだりすることは全部だめで、すべて論理的に説明して教えなさいという。これには異論があります。寺子屋の時代から戦前まで、人間に必要な教育は読み書きそろばん、次に修身と決まっていたのです。つまり、道徳教育は国語、算数について大切なことだと思われていた。ところが今では軽視され、中教審さえ道徳を正式の教科とすることに否定的な態度を取っています。道徳は子どもたちに対する上からの押しつけだから、教育としてよくないというわけだ。
3. 日本人は言葉にだまされやすい国民だから「押し付け」と聞くと反射的に嫌なものだと思ってしまうけど、本当にそうなのかを考えないといけない。たとえば弱いものいじめはいけないとか、大勢でひとりをやっつけてはいけないとか、こういったことは論理的理由など実はひとつもない。本当に大事な価値観は、小さい頃に親なり先生が形として無理やり押し付けて教え込まないとだめなのです。武士道には、こうした価値観がまつています。
(参考:「文藝春秋」2008年10月号)

経営者のための経済学

出生時の低体重が引き起こす問題

大竹 文雄 (大阪大学社会経済研究所教授)

1. 日本の人的資本は、人口の減少以上に低下するかもしれない。日本の子供の出生時の平均体重は、低下傾向が続いている。これは先進国では異例である。2500グラム未満で生まれてくる比率は、1980年は4.6%だったが、2004年には8%まで高まっている。この原因は、一つは疾病を防ぐために妊婦検診における体重管理を厳しくした結果かもしれない。あるいは、若者の間の貧困が増えて、妊婦の栄養が足りないことかもしれない。
2. 出生時の体重とその後の社会経済状況との関係が経済学者によって研究され始めている。それによると、出生時に低体重であったことと、注意欠陥多動性障害の発生率の高さ、教育水準の低さなどは相関があることがわかった。ただし、家が貧しいということが、出生時の低体重と低い教育水準の両方を引き起こしている可能性がある。これらの研究が正しければ、将来深刻な問題を引き起こすことになる。

(参考:「週刊東洋経済」:2008年8月9日号)

経営者のための営業学

草の根の販促活動

1. モルテン (競技用ボールの製造・販売) は、バスケットボールやバレー、サッカーなどの競技用ボールの販売量で約 13%の世界シェアを持つ。特にバスケットのシェアは 20%近い。五輪のバスケットの公式試合球は、1984年の米ロサンゼルス大会から7大会連続で射止めてきた。これは、モルテンの社内で「草の根の販促」と呼ばれている地道な営業を取り続けてきたことが大きい。日本国内でどこのメーカーのボールを買うかを決めるのは、主に学校の部活動の顧問や体育の先生たちである。その人たちにモルテンの民秋社長が社員を連れて全国大会やブロック大会を訪れ、「モルテンもかわいがって下さい」と挨拶して回った。
2. さらに強豪校に社員を派遣して球拾いを手伝わせたり、遠征先で荷物を自社のトラックに積んで駅から宿舎に運んだりする。合宿や大会の期間中には飲物の差し入れもした。こうした足で稼ぐ営業活動を海外でも展開した。

(参考:「日経ビジネス」2008年8月4日・11日号)

古典に学ぶ

立の字

「立志の立の字は、りつし 立、りつ 立、じ 置、じゅりつ 置、ひょうち 標、ふどう 置、さんぎ 不動の三義を兼ね」

(訳) 立志の立の字は、真っすぐ立つ (立)、目印を立てる (置)、動かぬこと (不動) の三つを兼ねたものである。

(参考:佐藤一斎「言志四録」:PHP文庫)